

少子高齢化の進行という観点から懸念される、未来の地域医療の課題について、私は二つの側面からのアプローチ方法があると考えます。

一つ目は、今後更に増えていくであろう高齢者層に着目し、誰でも地域医療を受けやすいシステムを確立することである。私の住む東京都府中市では、市の公式ホームページから「ふちゅナビ」というサイトにとぶことができる。これは、市内にある医療機関や介護保険サービス提供事業所などを検索できるサイトである。このサイトを用いることで、地域医療への導入がスムーズに行われる。こういったシステムは、未来の地域医療においては必要不可欠になると考える。

二つ目は、今後更に減少していくことが想定される青年期以下の層に着目し、未来の医療従事者を増やす取り組みをすることだ。本論文のテーマである「みんなで考えたい！未来の地域医療」を踏まえると、私はこちらのアプローチ方法を、より推奨したい。

少子高齢化と関連して未来の医療現場において予測される問題は、医療従事者の人手不足である。この問題を解消しない限り、人手不足によって医療従事者に負担がかかり、離職者が増えて更なる人手不足に繋がるという悪循環に陥ってしまう。私はこの問題を防ぐためには、医療をより発信し、若者を巻き込んだ地域医療の形成が必要になってくると考える。医師や看護師、薬剤師などの職業は広く知られているが、理学療法士や言語聴覚士などの職業を知っている若者はどれほどいるだろうか。また、知っていても、自分の進む可能性のある進路として捉えている人はどれほどいるだろうか。実際私も、進路は看護系と決めていたものの、高校生看護体験や介護老人保健施設へのボランティア経験を経て、ようやく医療従事者になるということの実態が見え、覚悟が芽生えた。多職種連携による効率的な治療が求められている現在、看護だけに限らず様々な医療職体験の機会を作り、まだ知られていない医療職をどれだけ普及させることができるかが、人手不足解消の鍵となる。

また、私は小学校の授業において、地域医療を構成する多職種について学ぶというカリキュラムの追加を提案したい。一年に数回でもいい、自分たちの住む町の医療が誰によって支えられているのかを知り、その医療を今後支えていくのは自分たちになるのだという自覚を持つ機会を与えるのだ。ただしこの提案を実現するためには、地域病院だけでなく、国や教育委員会の協力も必要となる。今こそ「みんなで」未来の地域医療を考えよう。機会を与えてもらった若者たちは、その機会を自分なりに有効に消化する義務がある。いずれお世話になる地域医療は皆のものであり、無関係な人など一人もいないのだ。医療機関を筆頭に、全ての人で未来の地域医療を支える。この意識を持った人が少なく、持つきっかけとなる機会も十分でないことが、今の地域医療の最大の課題なのではないだろうか。

#### 参考文献

府中市役所. “府中市医療・介護・地域資源情報検索サイト「ふちゅナビ」(市民向け).” 東京都府中市ホームページ, 2023-06-15, [https://www.city.fuchu.tokuo.jp/kenko/korenokata/medical-nursery\\_navi.html](https://www.city.fuchu.tokuo.jp/kenko/korenokata/medical-nursery_navi.html), (参照 2025-03-25).